

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）中間評価結果

大 学 名	長崎大学
整 理 番 号	B①06
事 業 名	持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>コメント</p> <p>本事業は、気候変動や人間活動により、持続性が失われつつあるアジアの海洋環境の保全と水産資源の持続的利用の実現のために、高度専門人材を養成することを目的とした国内において他に例のない事業である。コンソーシアム構成として日中韓に ASEAN からマレーシアを加えた 4 カ国 4 大学間の短期留学プログラム及び日中韓 3 大学間の大学院修士課程のダブル・ディグリー(DD)・プログラムの 2 つが柱となっている。</p> <p>これまでの取組状況として、コロナ禍による遅れが見られるものの、達成目標である環境整備・体制構築に非常に意欲的に取り組んでいることが認められる。オンラインによる学生交流会（大学院生セミナー）の開催、サマークラスの実施、さらには限られた期間であったが、短期派遣や受入プログラムの実渡航による実施等には、その成果が見出される。特に、韓国・釜慶大学校との共同研究体制としての DD プログラム整備に関しては、覚書交渉まで進んだ点が評価される。さらに令和 4(2022)年度に入り、マレーシアトレンガヌ大学を含めた各大学との交流も進展するなど、今後に大いに期待できる進展を見せている点は評価される。</p> <p>一方で、DD プログラムに関して、中国海洋大学との取組が遅れており、さらにマレーシアトレンガヌ大学との取組には、相手側の修士課程プログラムが日中韓と大きく異なるため、これ以上の進捗が困難になっている点は、今後の大きな課題である。また、外国人留学生の受入は概ね予定通りであるが、日本人学生の派遣が少ないという問題点が見受けられる。中国海洋大学との短期留学が中止となったこと等の影響が出ている可能性があるが、コロナ禍が落ち着いたことにより、今後の環境整備は特に重要である。さらに、これまでの進捗状況を見る限り、ハイブリッド形式よりも実渡航による活動の方が有効に見える点を考慮すると、今後の実渡航の重要性を十分に生かした事業展開を期待したい。</p> <p>最後に、今後も本事業終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進とともに、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>	